

## 第2回防府市庁舎建設懇話会 会議録要旨

開催日時 平成26年11月11日（火） 午後6時から午後8時まで

開催場所 防府市役所1号館3階 北会議室

### 出席者

#### 【委員】

鷗委員（座長）、古田委員（副座長）、青木委員、大村委員、岡本委員、林 勲委員、林 甫委員、広石委員、福田委員、山野委員、田中委員、長峯委員、水田委員

#### 【代理出席】

尾中代理（喜多村委員欠席）

#### 【事務局】

吉川総務部長、岩田総務部次長、林総務課長、松村総務課長補佐、竹末総務課長補佐兼庁舎建設準備室長、沼田総務課庁舎建設準備室主任

概要（発言要旨の文書は簡略化している。）

### 1 開会

### 2 議事

#### ○第1回懇話会会議録要旨の承認について

「第1回防府市庁舎建設懇話会 会議録要旨」について承認

#### ○第1回懇話会意見のまとめについて

会議資料「第1回防府市庁舎建設懇話会意見まとめ」について事務局から説明

#### ○意見交換

会議資料「第2回庁舎建設懇話会 意見交換」について事務局から説明

#### (1)「新庁舎の必要性」について

座長           そもそも建替える必要なのか、建替える必要であれば全部を建替えるのか、それとも一部を建替えるのか、皆さんがどう考えておられるかを確認しておきたい。

委員           市では何を前提として建替えるという話が出てきたのかというところから整理してはどうか。

例えば、老朽化し、耐震性に問題があり、何かがあれば機能が保てないという物理的な問題が出発点か、あるいは市の業務量やサービスに検討すべき課題が多々あるから庁舎を建替えなければいけないのか。

物理的な問題であれば、使い続けられるものは建替える必要はなく、市庁舎の役割に重点を置くのであれば議論の余地があると思う。

事務局 建替えの一番のきっかけは耐震性の問題である。特に1号館は耐震診断の結果、耐震改修も困難で、地震の際に倒壊の可能性があるため、災害対策本部の機能を果たせないため、消防庁舎に災害対策本部を開設するという話にまで至っている。ただし、機能についても、エレベーターの設置ができないなどのバリアフリーの問題や、増築、増築で建物が分散しているなどの問題がある。

委員 物理的な問題であれば、どの建物が耐震性がないのかということ。機能的問題については、少子高齢化の進展や、市の業務量の増減等といった問題を含めた上で、市の業務そのものを見直す、あるいは市庁舎にどのような機能をもたすかといった根本的なことから考えるのであれば、足かせをすることなく幅広い見地から検討した方がいいと思う。

白紙の状態から、市役所とは本来どうあるべきものかを考えて検討してみてもどうか。

座長 市としては、市庁舎そのものに物理的な問題があるので建替えが必要と考えている。建替えが必要か必要でないか懇話会としての共通認識を確認したいということだが、建替えが必要であるということを前提に議論を進めてよいか。

副座長 議会棟は新耐震基準を満たしているとなると建替える必要がないという話になるが、そのあたりはここではっきり決めないといけないのか。また、5号館別館の耐震性はどうか。

事務局 5号館別館はもともと民間の事務所であったものを買って使用している。庁舎の耐震診断を実施した際に事務所を貸している状況だったため、耐震診断を実施していない。今後建替えといった方向性が出れば、これも併せて実施したい。残そうということになれば、改めて耐震診断を実施したいと思っている。

委員 全て白紙で建替えの必要性を問うのか、それとも、市がある程度腹案をもっており、その方へ誘導していくということがありうるのか。

例えば、議会棟は耐震性が十分ということだが、議会棟と庁舎は離れ離れで機能するわけではない。議会棟だけ残し、耐震性に問題があるものだけをここに建替えるというのと、白紙でどうしたらいいかを問うというのでは少し違うような気がする。

事務局 庁舎の建替えについて自由に意見を言い合っていたきたい。結論は出さなくてもよいということをお願いしたい。

いろいろな意見の中から、来年度以降は協議会や委員会などで継続していく中で集約していき、方向性を考えるという形になっていくと思う。

委員 懇話会や委員会の意見や思いを大事にするということか。

事務局 最終的には予算や議会等を含めて整えていかなければならない中で、懇話会の意見が全て活かされるとは言えないが、ここでいただいた意見は基本的に尊重していくという前提でお集まりいただいている。

委員 いろいろな立場の方がいろいろな夢を持ってこれからの防府のために庁舎はどうあるべきかを言われると思うが、最終的には財政の問題等がありこうなると市の構想に誘導されていくということはないのか。

座長 この会は、白紙から将来の防府市庁舎をどう考えるかを議論する場であると認識している。皆さんから出てきた意見を報告書としてまとめたと思うが、それが全て取り上げられ、活かされるかどうかはまだ分からないと理解している。皆さんもそういった理解でどんどん意見をいただきたい。

委員 耐震性を全面に出していくと当然先ほどのような意見になる。議会と市庁舎が離れた市庁舎は考えることはできない。まず白紙の状態から市役所を考えていかないと議論が進まないのではないのか。

座長 基本的には全部を建替えるということを前提とした考え方で進めるということではよろしいか。

委員 耐震性もあるが、これからの 50 年、100 年を考えるのであれば全て白紙で考えるべきである。

副座長 議会棟は用途を変更して使えると考えれば敷地は現在地でなくてもいい、全て白紙で敷地も新たに考えるということになる。

## (2)「まちづくり・活性化・交通インフラなどと市庁舎の役割」、「市の部署の集約と分散」について

委員 前回、公会堂の敷地にと言ったが、公会堂の機能を持った災害時の避難場所という意味から多目的ホールを内包した市庁舎を検討してみてもどうか。

座長 多目的ホールを追加することの効果やまちづくりにもたらすメリットは何か。

委員 いろいろな公演を行うことにより人が集まる、災害時に避難場所になる、あるいは市の行事を行う、これにより市役所に用事がある人だけで

なく、広く市民が集う交流拠点といった役割があるのではないか。

副座長 公会堂の建て替えを一緒に考えるということと同じ問題になりそうな気がする。公会堂の耐震性や今後の維持管理の方向はどうなっているか。公会堂と市庁舎の建替えを同時進行で行い、多目的ホール付き市庁舎とすれば、別々に2つ作るよりもコンパクトに造れ、財政支出も抑えることができるという考え方もできるのではないか。

事務局 公会堂も築50年以上経過しており、耐震性も悪い数字が出ている。ただし、悪いのは入り口のホワイエの部分と時計台だけで、本体は大丈夫とのことである。副座長が言われたような意見は内部でも出ているが、耐震補強ができるかどうかの調査を現在行っており、その結果を見ないと結論が出せない。

座長 中心市街地活性化という面からも前回多数意見をいただいているが、それについてはどうか。

委員 5.4 キロにも及ぶ鉄道高架事業は県内他市にはない。鉄道高架はできたがまちはバラバラである。駅を中心にとということがやはり大事だと思う。交通の面からも高齢化という面から考えてもはずせない大きなポイントではないか。

また、庁舎を中心にもっていけば駅北の商店街の活性化が図れるのではないか。庁舎はそういった役割を担うものではないか。

委員 商工会議所では、委員会を作り中心市街地活性化について協議を重ねており、今後市の職員も加えて協議する場を設けていくことも考えている。

公共の施設はまず安全でなければならない。すべて白紙から考えていくということとはとてもよいことだと思う。位置についてもこれから中心市街地活性化を考えていく中でいろいろな意見が出ると思う。

少子高齢化はかなり速いスピードで進んでおり、バスあるいはタクシーで出かける方がどんどん増えてくると思う。その時、いろいろな施設がバラバラに存在するという状況はいかがか。高齢化になれば、中心市街地に一旦バスで行けば、歩いていろいろな用事を済ますことができることが必要である。市庁舎は50年、100年という将来を見据えて建てなければいけない。これらの問題も考えて中心市街地を活性化するために総合的に考えていかなければならない。

委員 富山市は路面電車を使い、駅を中心に2キロ四方にいろいろな施設を整備し、そこにマンションを建て、入居したお年寄りに補助金を出すといったことをしている。お年寄りが全国平均より毎日1,000歩くらい多く歩くため、医療費が少なくなり、その分を福祉行政に回せる。万人に

全てのサービスを与えるのではなく、市がある程度絞った区域にサービスを集中させるといった戦略的なまちづくりをしているようである。

市庁舎の建替えについては、民間とどのような戦略をもって駅周辺を活性化させていくかを併せて考えてはどうか。できるのを待つのではなく、意図的に作っていかねばなかなかできるものではない。

委員 市役所の建替えにコンパクトシティや市街地の再開発までを含めると、話が壮大すぎて難しい気がする。

最近建った市庁舎に共通して必ず必要なものというのがあるだろうし、同時に防府市独自に抱えている問題もある。駅北・駅南の一体化や時代・社会の変化、耐震性、高齢化の問題、その中で市役所はどうあるべきか、といった話になるのか。立地という話になると、どこに建つかという話になる。そうでなければコンパクトシティにならない。

座長 位置を具体化する議論をここでするつもりはない。市役所にどういう利便性がよいか、少子高齢化にむけて市庁舎がどのような役割を担うかといった意見を出していただければよい。

委員 アーケードは寂れ、駅周辺はびっくりするぐらい駐車場が増えている。少子高齢化が進めば、周辺が活性化しないと私たちの生活も成り立たない状況になる。

コンパクトシティや中心市街地活性化は庁舎建設と切っても切れないというのは当然だと思う。

委員 今の市庁舎であれば、まちづくりもできていない、活性化もしにくい、交通のアクセスも悪いという面がある。駅周辺など建設場所によっては市庁舎が拠点となり、周辺のまちづくりや活性化が図れるのではないか。

市は生涯学習都市や福祉のまちづくりを謳っているが、文化福社会館は、市民の拠点となっていない。市の業務やサービスを提供するだけでなく、多目的ホールとして市庁舎の中に市民を入れ込むことによって市民の活動や生活が活性化していくのではないか。

委員 いかにかコンパクトな行政組織を作るかということが必要だと思う。現在、市役所の敷地内にも複数建物があり、離れたところも建物があるが、これをいかにかまとめるか。まとめるにあたってはまず、行政機能として本来必要な機能は分散させないこととし、次の段階でまちづくりに対して何を付加するのか等を考えていけばよいのではないか。他市であるように、民間が大きなビルを建てた中に本来機能を持っていくといった方式もあると思う。

副座長 集約、分散するにあたり市の資産の再配置計画というものが必要にな

ってくると思う。山口駅周辺では借り上げ型公営住宅に入居者がどんどん入ってきて人口が増えており、例えば、市営住宅も今建替えの時期を迎えているものもあると思うが、民間の土地に公営住宅を建てるとか、駅周辺に建っている公共施設を別の用途に集約し、空いたところに公営住宅を建てるといったような一連の再配置の核として庁舎があるとよいのではないかと思う。実際に建てる段階になったら市営住宅や公民館の関連部署も巻き込んで再配置も視野に入れて計画してはどうか。

座長 国から市町村へ公共施設の再配置について検討するよう指示が出ていると思うが、公共施設マネジメントの動きはどうなっているか。

事務局 昨年度、公共施設の現況を公共施設白書にまとめた。施設の老朽化が進んでおり、建替え時期が重なり、多額の経費が必要となる。再配置、廃止、統合まで含めて検討する公共施設マネジメントを始めており、今年度、基本方針を策定することとなっている。

庁舎の建設についてはできる限り早期実現を考えているので、原則、公共施設マネジメントと切り離し、並行して進めていく。ただ、合築などの意見が出てきて公共施設マネジメントに影響が出てくるということはあると思う。

委員 全部を集約するのではなく、分散させた方がいい業務もあると思う。例えば、おもてなし観光課は市の中心や観光地付近に配置した方が実態が分かってよい。クリーンセンターなど現状でなんら問題がなく、分散して効果がある施設についてはわざわざ集約して市庁舎の規模を大きくしなくてもよい。

委員 市役所というのは市民生活にとって役に立つべきものであるため、市民の生活に必要なところは集約し、人の流れを作っていくべきだと思う。例えば図書館は山の上にあったものを駅周辺へ移転したことによって完全に人の流れが変わった。流れを変えるような思い切った集約をすべき。そうでないものについては分散するということがいいのではないか。

委員 公共機関の整備も大事だと思うが、駐車場を確保することも大事なことだと思う。仕事で市役所に来ることもあるが、車が停められないことがある。駐車場が足りていない。アスピラートやルルサスなどの施設は、駅と直結しているので駐車場が少ないのだと思うが、駐車場がなければ私たち世代は行かない。

座長 車を使える層が極めて少なくなる将来に向けて車に過度に依存しなくても市民生活に支障がないまちづくりを考えていくということが大事だと思う。その本丸が市庁舎であるとすればどういう考え方ができる

か。

委員 私も郊外に住んでいるので駐車場がないと困る。また、公共交通の重要性も感じる。コンパクトシティや中心市街地活性化などに市庁舎の担う役割を考えるにあたり、コンパクトシティのコンパクトとはどのくらいの範囲を考えたらいいか。駅周辺や商店街若しくはもう少し広い意味で郊外までも含めて考えるのか。

座長 コンパクトなまちづくりは、ビジョンは分かるが定義がないとよく言われている。どの範囲でどういうことをコンパクトと定義するかは自分たちで決めなければならない。あと2回しかない中でこれを定義することはできないが、ビジョンという中でコンパクトというものを理解してほしいと思う。

委員 防府市の都市計画を考えていく中で、例えば中心地居住と言っているが、一方では調整区域に住宅を建てることのある程度許されているような方向性があり、これをどう調整していくかが将来的な課題である。これらを考えていくと中心市街地やコンパクトシティと市庁舎の役割というのが頭の中ではっきりとイメージが見えてこない点もある。

委員 少子高齢化を迎えるにあたり、市庁舎に文化福祉会館にある趣味嗜好を満たすような施設を考えてはどうか。人が集まれば飲食がつきものであり、レストランや売店など、市民が市役所に用事がなくても来れるといった施設はどうか。

委員 防府市は郊外に人が住むようになり、ドーナツ化現象が起き、中心部が高齢化している。駅前にマンションが建つと高齢者がすぐに申し込まれるのは、交通とのアクセスを望んでおり、駅周辺に住んだ方が便利だと思っているから。車がないとどこにもいけないというのはドーナツ化が起因していると思う。コンパクトに市街地に集めるということは方向性としていいことだと思う。

委員 基本的な行政業務は一箇所に。だが、図書館や公会堂といった集客施設は市民が集まりやすいところにもっていくといった分散型が絶対に必要だと思う。基本的な行政機能はコンパクトなものとし、できればまちの中心に近いところがいいと思うが、車を降りて歩くにはどうしたらいいかということも考えると駅から1キロ圏内程度のところに本丸はあるけれど、集客施設は駅の周りにあるという形がよいのではないか。

委員 私も車に乗る世代だが、公会堂で行事がある日を考えると、あの渋滞で市役所には行けないなと思うことがある。集客力があるのであれば、公会堂は中心地に近い、人の交流が図れるようなところにあるべきだと思う。また、親が歳をとっていくことを考えると、生活に関わりのある病院

や公共施設、商業施設が駅に近いところにあったり、国や県の手続きができる場所を市役所にもって来れるといいと思う。

座長 基本的には集約した方が利便性があがるということだと思うが、防災の面からは分散と集約ではどちらが効果的と考えるか。

委員 地域に防災機能を持った公共施設が分散してあるとよい。平常時の備蓄費用などはかさむと思うが、市民の避難場所が多いという視点を持てばよいのではないかと思う。

委員 全国的に少子高齢化が進んでいく中で、防府市だけは人口が減らないようにするためにはどうしたらいいかを商工会議所でも繰り返し議論している。市内の方が中心市街地のマンションに入居するという発想では人口は増えない。市外から防府の中心に来させるという発想で増やしていこうと。

もうひとつは長崎に行った際に、高齢者を対象とした高級マンションのポスターを見た。金額は高いが、県外あるいは市外から高齢者を呼び込もうというもの。そういったものが防府の中心市街地にあれば人口が増え、お金も落ちる。そういったことも考えていこうというようなことも話している。

委員 周辺部に住宅が開発され、30年、40年前にそこに入った人たちが70歳代から90歳代になっている。大型店舗ができたことで周辺部はだんだん店がなくなり、車に乗れなくなったらどうにもならないため、せっかく住んでいた家を処分して中心部のアパートに転居しているという状況が出始めている。

以前は市役所も警察署も郵便局も車塚にあり、狭いところに密集しており、大変だった。現在地にできた時はみんなとても喜んだ。当時は周りほとんど田んぼだったが、今は駅北よりも駅南が市街地化している。庁舎が建て替わり、そこが中心となれば防府市の活性化に役立つのではないかと思う。

座長 市庁舎の建設に限らず、防府市の将来の都市ビジョン、都市計画のマスタープランをどう防府の生活スタイルに合わせていくかということも別の計画でしっかりおさえ、総合力を発揮して計画を作っていただきたいと思う。

### (3) 「国との一体的整備」、「事業費、財源等」について

委員 市庁舎は市が全て使うのか。例えば市の業務を委託して業者に使用料を、多目的ホールであれば公演等の収益など、市が使うだけでなく市庁舎を貸して使用料をとれば収益も入ってくるのではないか。市の業務を



職員が全てやるのではなく、ある程度民間に委託すれば人件費も減り、使用料も入る。そういった考え方もあるのではないか。

座長 オフィス部分にしても会議室にしても、セキュリティの問題等あるが、使用料という考え方はひとつあると思う。

国との一体的整備については何か意見はないか。

委員 法務局など市民生活に関連するところは一体的に整備した方が便利だと思う。

座長 隣に合同庁舎があるが、市役所と一体的に床をシェアするなどの検討の余地はあるか。

事務局 国も県もどんどん引き上げていっている中で、残っているものについては協議の余地があると思う。整備するタイミングが重なれば考えることもできると思う。

座長 これについては情報収集をお願いする。懇話会の開催時期に間に合えば資料の提示していただきたい。

委員 借金なしに庁舎を建てるということはまずないと思うので、銀行からお金を借りると思うが、市が独自に公募債のような市民にとっては銀行にお金を預けるより利息がよく、市も銀行から高い金利で借りるよりもいい、といったものを発行すれば市民の注目度、関心度もあがり、いい方向に向かうと思うが。

事務局 防府市では公募債は発行したことはないが、他市で庁舎建設に関連した事例などないか研究してみる余地はあると思う。

### 3 その他

3回目は、1月14日（水）午後6時から、4回目は2月13日（金）午後6時から開催する。

### 4 閉会